

「NPO法人禁煙ねっと石川」で進める喫煙防止教育

## 児童の禁煙ポスターコンクール

NPO法人禁煙ねっと石川  
理事(事務局長) 福田太睦

同 理事 遠藤将光  
同 理事長 岩城紀男

# 児童禁煙ポスターコンクールの意義

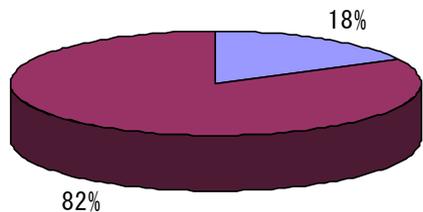
- 喫煙防止教育の一環として禁煙ポスターを描くことにより、こどもたちが自ら将来にわたってタバコから身を守ることを学ぶ。
- こどもたちの描いたポスターは、大人たちにも新鮮で強力な感銘を与えるので、展示公開することにより社会に向け、強い禁煙キャンペーン推進効果がある。

# 小学6年生に行った禁煙教育の効果を3年後に判定 ある中学校における3年生の喫煙率調査

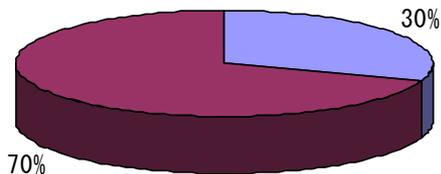
2004/2/15

読売新聞

A小学校卒業



その他の小学校卒業



■ すったことがある  
■ すったことは無い

金沢

読売

13版 石川

## 禁煙教育、小6時 効果あり

### 教育受けなかった子

喫煙経験 30%

### 中学3年を追跡調査

### 教育受けました子

喫煙経験 17%

金沢市内の小学校で喫煙による健康被害などを児童に教える「禁煙教育」を行っている遠藤将光・国立金沢病院医師が昨年、小学校六年時に禁煙教育を受けた中学三年生を追跡調査したところ、禁煙教育を受けていない子どもと比べて喫煙経験のある割合が10%以上少ないことが分かった。禁煙教育の成果を実証する調査は少なく、専門家からも貴重なデータとして注目を集めている。

### 金沢病院・遠藤医師が調査

同病院の心臓血管外科医長を務める遠藤医師は、動脈硬化などにつながる喫煙の怖さを子供に教えようとして、一九九九年から金沢市内の小学校で六年生を対象に禁煙教育を進めている。授業では、肺がんや食道がんの原因に喫煙との因果関係があることや、喫煙が胎児にも悪影響を与えることなどを医学的に説明している。

追跡調査には、市内の中学校一校が協力。禁煙教育を受けた小学校出身の生徒で男子三十八人、女子三十八人が、受けていない小学校出身の生徒の中から男子五十八人、女子五十七人が喫煙経験を問うアンケートに回答した。

集計は、金沢大学保健学科の城戸昭彦教授にも協力し、調査の結果、「二回でも喫煙したことがあるか」という問いに、禁煙教育を受けた生徒で「ある」と答えたのは17・6%（男子21・1%、女子13・9%）だ。研究は少なくとも今回の調査のために、受けていない生徒は30・4%（男子34・7%、女子25・3%）と常に評価できる」と話している。

遠藤医師は、「成長や体の機能などどう悪影響が出るのか具体的に教える機会があれば、子供らの禁煙への意識ももっと高まるはずだ」と話し、学校や行政が一体となって、禁煙教育に取り組み必要性を訴えている。

インターネットで「禁煙マラソン」を主宰するなど禁煙活動の第一人者として知られる奈良女子大学教授の高橋裕子医師は「健康への影響の恐ろしさについて教育することが、喫煙者の減少に有効である」と話している。

# 実施方法

## 対象校；

医師が希望する学校に出向いて喫煙防止教育を行い(出前教育)、その後で画用紙の2倍サイズの内紙(配布する)に禁煙をテーマにポスターを描く。

## 審査会；

ポスターを回収し、審査会にて優秀作品を選出する  
審査委員長 金沢美術工芸大学 川本敦久教授  
審査委員 NPO禁煙ねっと石川より数名

# 表彰と展示会

## 審査成績；

最優秀賞1点(副賞 図書券10,000円)、優秀賞5点(同5,000円)、佳作25点(同1,000円)を選定、応募者全員に記念の鉛筆を贈呈

## 表彰式；

金沢市立玉川こども図書館2F交流ホール

## ポスターの展示；

玉川こども図書館3F

(その後順次、石川県庁最上階展望ロビー、金沢市役所内にて行う)

# 第4回日本禁煙科学会総会in金沢 記念禁煙ポスターコンクール

平成21年10月

参加小学校；

犀川小学校6年、戸板小学校5, 6年

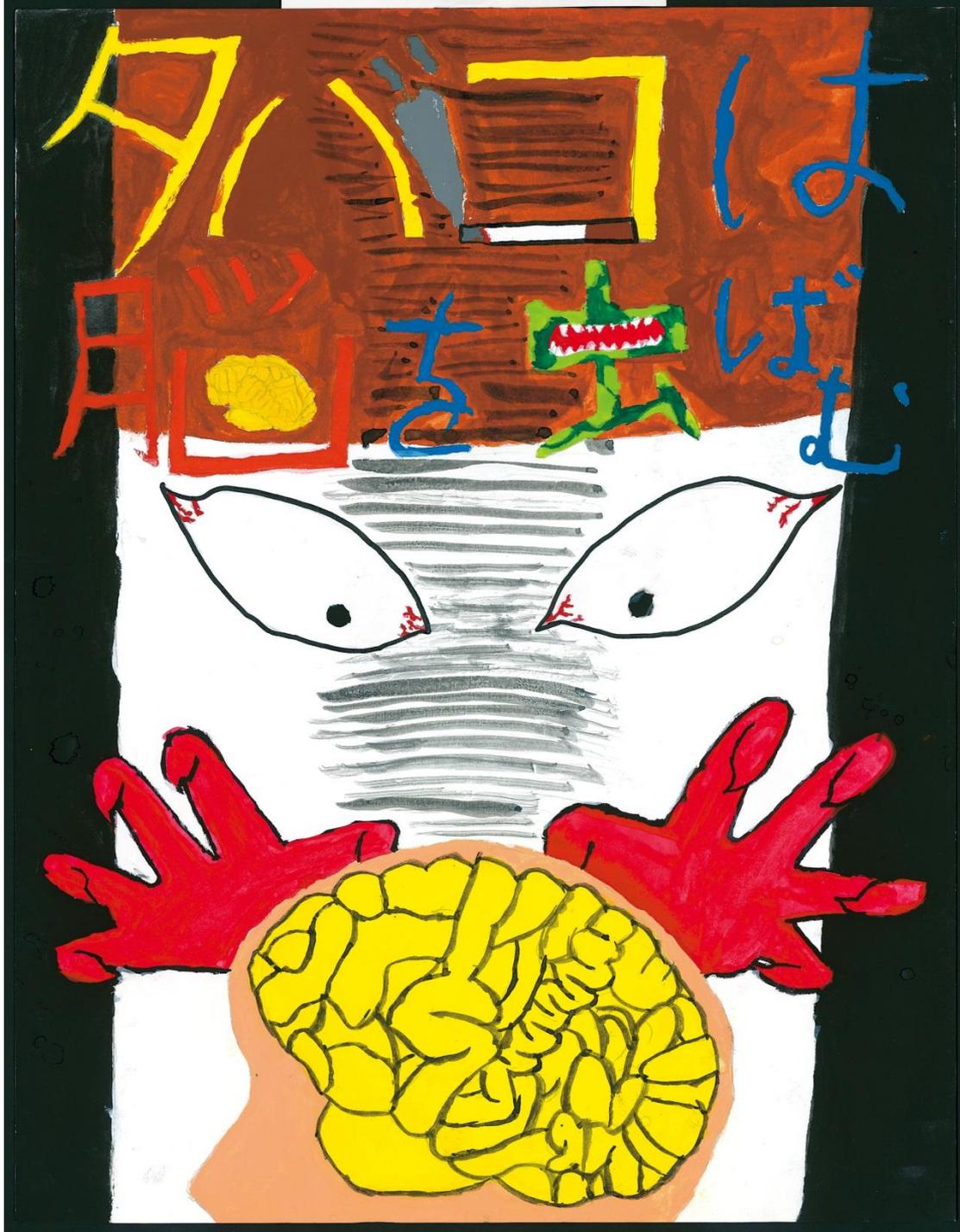
併せて202名参加

共催；

NPO禁煙ねっと石川、国際ソロプチミスト

金沢、国際ソロプチミスト金沢ーくろゆり

最優秀作品



優秀作品

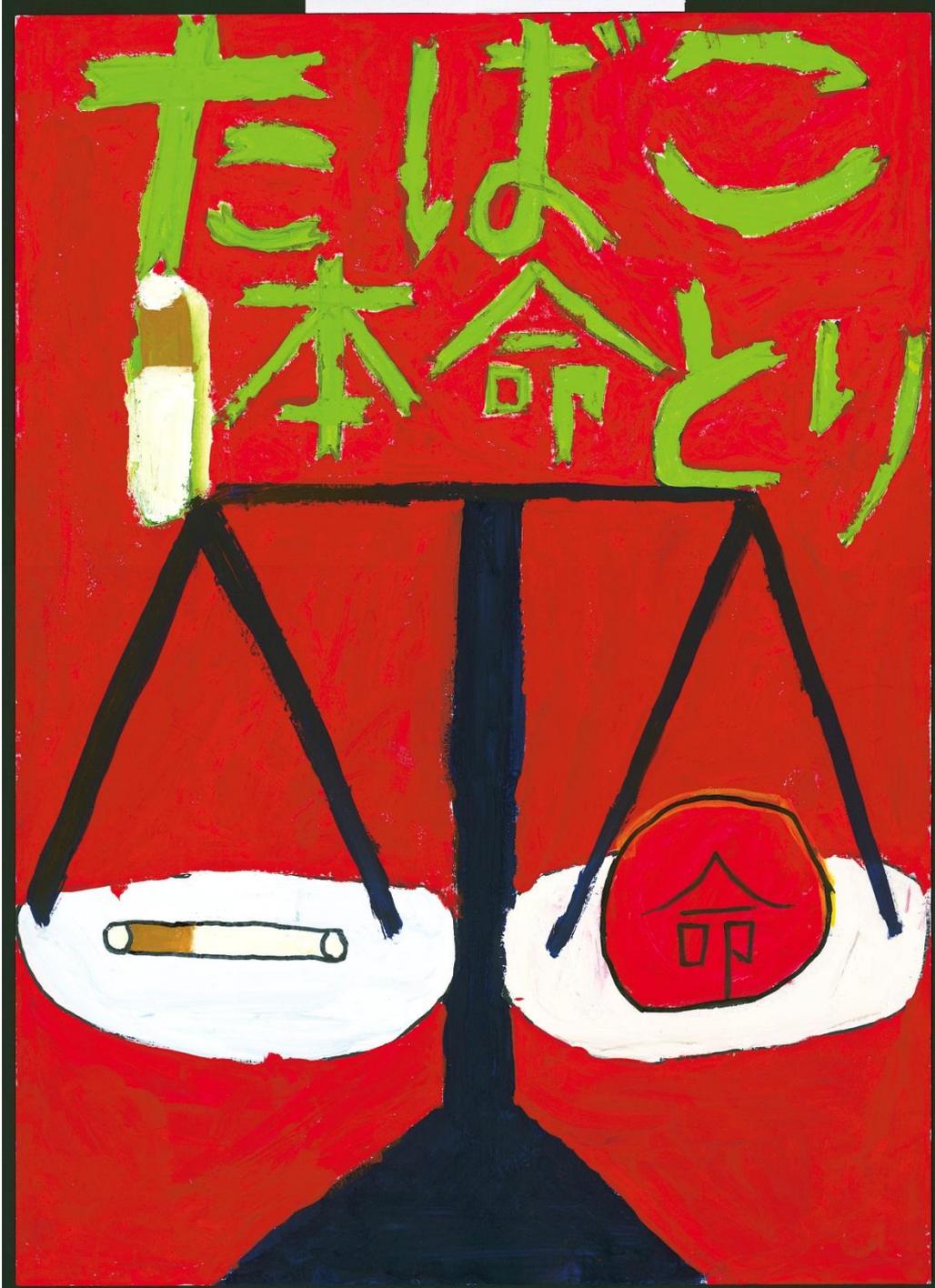




優秀作品



優秀作品



優秀作品

優秀作品

